来年度（H27）の海部会活動方針

■活動テーマ①：ごみ・流木問題

運営方針から見る活動内容	WG・振り返りシートから見る活動提案
○管理者の処理が行き届かない流木ごみの再漂流防止のため、市民活動での処理方法や再利用ニーズなどを調査する（個々に情報を持ち寄る）。 ○県が進めるごみ MAP への調査結果の活用検討など様々な関係者との連携を検討していく。	○できれば山部会、海部会のメンバーにも調査に来てもらいたい。 ○山部会メンバーがくれば流木の種類がわかると思う。 ○水際と堤防沿いではごみの種類が異なるので網羅的に調査してもよいのではないか。 ○これまでのごみ・流木調査の結果などの報告会や勉強会を実施してもよいのではないか。 ○FM 愛知などのマスメディアとの連携で広報できれば多くの参加者が集まると思う。 ○今後、ごみの発生源調査をやってみてもよい。 ○根本的なごみ対策も考えていかなければならない。

《来年度の活動内容（例示）》

① **ごみ・流木調査の継続実施**
矢作川での出水後の調査／山・川部会と連携した調査／海底ごみ調査など

② **調査結果の整理・分析方法の検討**
ごみＭＡＰの作成／調査結果のデータベース化／発生源等の特定方法の検討など

③ **流木等の自然由来の処理方法の検討**
市民活動での処理方法の検討／再利用ニーズ調査の実施／「木づかい」との連携など

④ **流域連携に向けたＰＲ方法の検討**
調査結果報告会の実施／写真・パネル展の実施／パンフ・ポスター作成／他プロジェクトとの連携など

来年度の活動方針（案）

① **山・川と連携したごみ・流木調査の実施**

山・川部会メンバーと合同でごみ・流木調査を実施し、ごみ・流木の現状と問題意識を流域圏全体で共有するとともに、発生源の特定方法や「木づかい」と連携した流木再利用方法の検討などの解決策について意見交換を行う。

併せて、調査結果の活用、ＰＲ方法（データベース化、ごみＭＡＰ作成など）を検討する。

② **他団体の啓発イベントに参加して海部会の活動報告会を行う**

奈佐の浜プロジェクトや愛知県の啓発活動と連携し、海部会の活動報告などを行い、情報発信・共有を進める。また、主催団体や運営スタッフ等へのアンケート調査を行い、市民活動での処理方法や再利用ニーズ等に関する課題を把握する。

■活動テーマ②：豊かな海の生物調査

運営方針から見る活動内容	ＷＧ・振り返りシートから見る活動提案
○干潟現場見学会の実施 ○総合的な海の情報共有を推進する。 ○ごみの生物影響に関する情報収集を実施する。 ○流域圏の干潟生物等のアーカイブ作成する（環境学習にも使える生き物パネル等の作成）。	○鳥と干潟と後背地の問題が関係していることがわかり視野が広がった。鳥を通じた干潟等の話は、別の機会で勉強会などがあるとよい。 ○別水域になるが、宍道湖や諏訪湖における取組みに関する情報提供をしたい。 ○矢作ダムの砂を活用して干潟を造成できたら、せっかくなのでそこで生物調査を実施したい。

《来年度の活動内容（例示）》

① **干潟生物調査の継続実施**
海部会構成団体の活動との連携

② **調査結果の活用方法の検討**
調査結果のデータベース化／生き物パネルの作成／その他ＰＲ方法の検討など

③ **総合的な海の情報共有**
生物影響ゴミの情報収集／海底のごみ調査／干潟の必要性検討など

来年度の活動方針（案）

① **勉強会の開催**
メンバーの専門性を活かして、鳥類の生態から豊かな海を考える勉強会の第二弾や別水域における環境再生の取組みの勉強会などを実施する。

② **生物モニタリング調査の計画の検討**
河口干潟において、干潟生物調査を実施する。
矢作ダムの砂を活用して試験的に造成する干潟の効果を検証・PR するために、生物のモニタリング調査の計画を検討し、調査を行う。併せて、調査結果の活用、ＰＲ方法（データベース化、パネルや冊子作成など）を検討する。

■活動テーマ③：海と人との絆再生

運営方針から見る活動内容	WG・振り返りシートから見る活動提案
○海から遠のいてしまった子どもの遊び場としての干潟づくりを漁協等の関係者と検討する。 ○生き物調査や清掃活動などの環境学習への参加者の増加を目指した学校関係者等との意見交換を行う。 ○海での様々な活動者の発掘と活動支援を行う。 ○海への理解を深めるための勉強会や現地見学会を実施する。	○若い世代に三河湾･伊勢湾に残っている素晴らしさを伝え、海に関心を持ってもうらいたい。 ○海の生き物を食べると子どもの関心も高まる。 ○海に行かないのは距離だけの問題ではない。行った先に楽しみが必要。 ○水辺に人を集める工夫が必要。師崎漁港の朝市のように 10 年スパンくらいで取組む必要がある。 ○海にアクセスするための駐車場や階段、海の駅のような飲食できる場所があるとよい。 ○漁業と環境産業の成功事例を三河湾でつくれないか。 ○三河湾の環境や漁業の歴史がどう変わってきたか漁協の組合長から話を聞く機会を流域圏懇談会全体で儲けてはどうか。

《来年度の活動内容（例示）》

① **海に関心を持ってもらう啓発活動の実施**
食イベント／小学生との交流イベント／学校関係者との意見交換など

② **干潟へのアクセス改善の検討**
干潟の部分開放／干潟へのアクセス改善（改善個所の検討）など

③ **海での活動者の発掘・連携**
三河湾での海の交流活動調査／部会構成団体の活動報告会の実施／活動連携の意向調査など

来年度の活動方針（案）

① **啓発イベントの検討・実施**
矢作ダムの砂を活用して試験的に造成する干潟をフィールドとし、干潟観察や鳥類観察などのイベントを開催し、小学生や学校関係者との交流や啓発活動を行う。また、その中で干潟へのアクセス改善の検討を行う。

② **漁業者との交流会の企画提案**
海部会がコアとなって漁業者との交流会の企画（人選やテーマ）を検討し、流域圏全体に提案を行う。

■活動テーマ④：干潟・ヨシ原再生

運営方針から見る活動内容	ＷＧ・振り返りシートから見る活動提案
○河口部の干潟・ヨシ原再生箇所における生き物のモニタリング調査を実施する。 ○今後の左岸河口部等の干潟再生事業箇所における望ましい再生の姿を検討する。 ○干潟現地見学会の実施 ○ダム砂や川砂の実態調査や山地域との課題認識等の情報交換を実施する。	○山･川･海部会メンバーが集まってボートやバケツリレーなどの人力作業を組合せて砂を入れたい。 ○矢作ダムの砂で干潟をつくったらＰＲを推進すべき。 ○「矢作ダムの砂を入れた」で終わりではなく、イベントをしたり子どもを呼ぶ仕掛けを考えたり、土砂の意識を高めていくきかっけにしたい。 ○純粋に学問的なことだけでなく別のインパクトを期待したい。 ○記者発表をして子どもたちに参加を呼び掛けることも可能。 ○せっかくなので生物調査も試験造成する干潟でやりたい。

《来年度の活動内容（例示）》

① **矢作ダムの砂を活用して試験造成する干潟のモニタリングの検討**
環境モニタリング計画の検討／調査結果のデータベース化･公開方法の検討など

② **造成干潟のＰＲ方法の検討**
海部会構成団体との連携／記者発表／SNS の活用／学会発表など

③ **造成干潟の活用方策の検討**
交流･啓発イベントの検討･実施／市民参加のモニタリング調査の検討など

④ **流域連携に向けた活動検討**
山･川部会との情報共有･活動連携／愛知県西浦人工干潟との姉妹干潟交流･情報交換など

来年度の活動方針（案）

① **矢作ダムの砂を活用して試験造成する干潟の保全･活用方策の検討**
矢作ダムの砂を活用して試験造成する干潟をフィールドとして、モニタリングや流域圏内外へのＰＲ、活用方策などを検討し、他の３つのテーマを束ねながら流域連携を牽引する活動を実践する。

来年度（H27）の山部会活動方針

■活動テーマ①：山村再生担い手づくり事例集

運営方針から見る活動内容

○事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。
○山部会では、山のことを知ってもらうため、山村再生担い手づくり事例集の作成を、流域圏（特に市民が中心）で一体的に行っていることを提案する。また、ここで実施するヒアリングを通じた交流のしくみを川部会や海部会にも提案したい。

WG・振り返りシートから見る活動提案

○山村再生事例集の対象を増やし、流域再生担い手事例集としてとりまとめられるとよい。
○各団体の所在地・活動範囲などがわかる資料があるとよい。
○事例集の取材先同士が集まれる仕組みがあるとよい。
○昨年度、取材したところを再び訪れて、追加取材という形式をとっても面白い。別の観点から取材することで、新たな情報収集が可能となり有意義と思う。
○取材先に山にかかわりのある川の団体や海の団体を含めることも考えられないか。その方が、川・海のメンバーが行きやすいのではないか。

《来年度の活動内容（例示）》

① **既取材済み団体の活動紹介の深度化**
事例集の作成過程で取材した団体への再取材など
② **山村再生担い手同士のつながりの形成**
取材した団体（取材先）同士の交流の場の企画など
③ **山村再生に関わる取組み活動の範囲の見える化と森づくり・木ずかいとの連携**
事例集の取材先の所在地等を反映したマップの作成など
④ **事例集のＰＲ方法の検討**
作成した事例集のＰＲの実施など

来年度の活動方針（案）

2013、2014年度に引き続き、事例集の作成を行う。川や海の活動団体も取材対象とする。
3ヶ年の取材団体を地域や活動の種類によって検索し、取材内容を閲覧することができる地図を作成し、ホームページ（クリックして団体の活動情報を取得できる等）にアップする。

■活動テーマ②：山村ミーティング

運営方針から見る活動内容

○旭、根羽、恵那の３地区で木の駅プロジェクト実行委員会が行われており、この活動を山村ミーティングとして位置づけ、連携、協働していく。

WG・振り返りシートから見る活動提案

○矢作川流域圏の山村で活動している若手同士、課題や悩みについて相談し合える仕組みを作れればよい。
○既存の木の駅プロジェクト等の活動と連携しながら進めていくことがよい。
○岡崎森林組合の職員が演奏する「岡森フォレスターズ」のライブを矢作川流域圏に周知して山の仲間を集めるのも一つの手として考えられるので企画について検討したい。
○山村に関わるイベントに対して、矢作川流域圏懇談会は、協賛・共催など、活動をバックアップする基盤のようなかたちで関われればよい。矢作川流域圏の中の他の団体とのつながりをしていくことが重要である。

《来年度の活動内容（例示）》

○ **既存の他団体の行事と矢作川流域圏懇談会との共催・企画**
矢作川きこり祭りの実施など

来年度の活動方針（案）

「木の駅が、根羽、恵那、豊田それぞれで立ち上がり、岡崎市額田町でも準備が始まった。
これらと連携しながら、新たに「矢作川きこり祭り」（仮称）の開催の準備に入る。
長老ベテランの技、アイターン若者のパワー、森林ボランティアの心意気を思いぞんぶん発揮できる「お祭り」で、流域のきこりが集い、汗を流し、杯を酌み交わし、語り合う場づくりにする。」

■活動テーマ③：森づくりガイドライン

運営方針から見る活動内容	WG・振り返りシートから見る活動提案
○流域圏の森づくりのカタログを作成し、森林所有者や行政、森林組合等の情報源として活用してもらうと同時に、森づくりにおける現状と課題、その解決手法に関して、川や海のメンバーへの説明資料とする。 ○今後、矢作川流域圏の川や海に配慮した木材生産をするモデル林、スギ・ヒノキ人工林を針広混交林や広葉樹林へ転換していくモデル林について、流域の４地区にそれぞれ設定していくことを検討する。	○来年度は流域圏の首長による討論など源流サミットを開催できればよい ○ガイドラインには、間伐の効果が時系列で理解できるものがあるとよい。 ○よい例以外にも、典型的な放置林などもあると分かりやすい。 ○森を知らない人にとっては、地域にある巨木なども見せられるとよい。 ○山村再生担い手事例集でもマップをつくるので、森づくりのものと将来的には一緒に作っていければよい。

《来年度の活動内容（例示）》

① **流域圏一体となった森づくりの課題・解決手法に関する情報共有**
矢作川流域圏の特徴的な森づくりを整理したガイドラインづくりなど

② **山部会の他のＷＧとの連携**
山村再生担い手事例集・木ずかいガイドラインとの連携など

③ **矢作川流域圏の特徴的な森づくりに関連する情報を収集したモデル林の設置検討**
特徴的な森づくりを発展させた流域圏における試験林の設置など

来年度の活動方針（案）

●流域圏の森の統計的情報、代表的、特徴的な森や樹木のリストを地図上に落とした資料を作成し、森づくりにおける現状と課題、解決手法を川部会、海部会へ説明し、理解していただくための基礎資料とすると同時に、森林所有者、行政、森林組合、市民の情報共有のために活用していただく。
●今後、矢作川流域圏の川や海に配慮した木材生産を目指すモデル林、スギ・ヒノキ人工林を針広混交林や広葉樹林へ転換していくモデル林、森林の水源涵養機能を科学的に明らかにすることを目指した試験林等について、流域の４地区にそれぞれ設定していくことを検討する。

■活動テーマ④：木づかいガイドライン

運営方針から見る活動内容	WG・振り返りシートから見る活動提案
○すでにアタック表に掲載できる既存の活動や、これから実践できる活動を加えたより現実的なアタック表とするため、既に木づかい推進に取り組まれている実績のあるスタッフや、関連するスタッフを新たに探して部会に参加してもらう。 ○新スタッフを加え、平成 25 年度のライフステージアタック表（案）をベースに、すでに取り組まれている「とよた森林学校」等の活動を表に落とし込んでみることにより、広範囲の木づかい推進活動をアタック表の視点から見える化してみる。 ○この時点で分析を行い、どの部分が充実していて、どの部分が弱いのか把握し、アタック表を再整理してみる。 ○また、ここで明らかになった先進的な取り組みを数回、部会として体験してみる。 ○この先進的な取り組みが他地区へも比較的簡単に導入することができれば、それをアタック表に加えて見える化する。 ○これにより、現時点での木づかいガイドラインの原形を作成する。 ○核となる市民活動（提案されたものも含める）ごとにプロジェクトチームを結成し、行政・業界・研究者の上手な連携の形態を提案、あるいは構築できるように検討・働きかけを行い（どの程度までできるかは検討）ながらアタック表に掲載して、皆が現実的な取り組みとして行動できるように段階的に木づかいガイドラインの作成を進める。	○木の駅に関係して、個人の木の利用、簡易製材・ちょっとした木工の製作。ベンチ、小屋みたいなものを作って山の中に拠点を作るイメージはある。 ○木工教室みたいなものを開催できないか。子供用の本棚や大人向けの食器棚などを作って家で使えるとよい。 ○豊田のまちなかは殺風景ともいわれており、まちなかに緑や木の物を増やしたい一方で、自然としての矢作川を売り込むことも面白い。例えばモデルポケットパークなんかもおもしろい ○間伐材を使った橋りょうなどの見学会を木曽地域で経験したことがある。林野庁や地元自治体などが企画した林業ツアーは、木づかいという面で、大変有意義であったので、そのようなイベントも行えたらよい。 ○地元全体で盛り上がれるような仕掛けがあるとよい。例えば、地元の木材をフリーマーケットのようなかたちで出品者、購入者が交流できると面白い。 ○木工業者、製材所、建築家等の連携が重要となる。 ○木づかいガイドライン作成を通じ、山に金を戻す仕組みを見える化することが大切。流域圏でスギダラをやる意味や、木づかい推進に伴う新たな業の検討には、安心の連鎖、生活の質を高めること等も含めて考えていくことが重要。

《来年度の活動内容（例示）》

① **木づかいガイドラインの周知・ＰＲ手法の検討**
木づかいガイドライン掲載の取り組みに対する継続した提案・モニター・場所の募集など

② **スギダラどこでもシリーズの実践**
スギダラ製品の製作／販売製作者の募集など

③ **スギダラキャラバンの実践**
木づかいイベントの開催企画など

来年度の活動方針（案）

次頁・次々頁　参照

平成27年1月29日

木づかいガイドライン作成関連資料

1　平成26年度　木づかいガイドラインの活動総括について

① 行政・森林組合等森林・木材関係者を中心とした木づかい推進の検討は、市民目線から離れてしまい、一部の専門家集団による議論に特化されてしまう懸念が生じた

② また、こうした関係者のみによる課題検討の傾向を打破する意味においても、流域懇談会への市民参加があるのではないか、との強い意見もあった

③ こうした展開から、平成26年度は前年度から継続していた市民目線から木づかい推進を行う「矢作川ディズ　木づかいガイドライン　ライフステージアタック表」と「人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす　森や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きるライフスタイルへの誘い　矢作川ディズ」の思想を活かして、より具体的に活動を始められるような「木づかいガイドライン」の作成を検討した

④ その結果、市民、行政、業界、行政が今すぐに具体的に「木づかい」の行動を起こせる「さあ～しよう」という提案型の「木づかいガイドライン」のスタイルが望ましいということになり、数回の検討を経て提案者、提案する内容、提案の想定対象者を想定した原案を作成した

⑤ 山部会で作成したその原案を基本にして、すでに提案が可能と考えられるものから提案者に対して原稿依頼を図ることとした

⑥ 同時に、矢作川流域懇談会山部会として、自ら様々な里山グループ・工務店・地域の団体等と連携して、矢作川の流域材を活用した「木づかい」推進を図るため、根羽村森林組合をリーダー役とする「スギダラ矢作川流域支部」を発足させ、流域内のイベント等とジョイントさせた「木づかいライブ・スギダラキャラバン」をスタートさせることとした

⑦ 部会では、こうした「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を行うことにより、広く市民に対して矢作川流域材の活用による「木づかい」推進を図ると共に、流域の方々が連携して地域の生活空間を自らのアイデアと行動でスギダラケにしていこう、という考えを共通認識として確認し、本年度の活動は終了している

2　平成27年度　木づかいガイドラインの活動方針について

① 平成26年度に作成した提案型「木づかいガイドライン　さあ～しよう」の原案を基本に、各提案項目について提案が可能なものから順次提案者へ原稿を依頼して作成業務を行う

② 「木づかいガイドライン」は、こうした方法で順次提案者に作成依頼を図りながら、その内容を増やしていく

③ 並行して開催する「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は、「木づかい」推進のリーダー役を務める根羽村森林組合がまとめ役となって、里山市民グループ・地元工務店・地域の団体等と連携しながら、流域内の様々なイベントとジョイントを図り、地域に活力を生み出す元気な人の輪を育成する

④ 「木づかいライブ・スギダラキャラバン」開催を通して、「森づくりガイドライン・木づかいガイドライン」等の森づくりと木づかい情報を発信して、矢作川流域の森林資源・木づかい推進活動を紹介しながら、森や木づかいのファンを増やしていく

⑤ 同時に、木育アイテムや「どこでもシリーズ」等スギダラ商品の開発を図りながら、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を広く市民に提案して、その普及と定着を図る

⑥ こうした楽しい「木のある暮らし」の普及を基本として、市民自らのアイデアと行動で身近なあらゆる生活空間をスギダラケにする市民活動を生み出し、「人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす　森や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きるライフスタイル　矢作川ディズ」を確立する

来年度（H27）の川部会活動方針

■テーマ① 生き物の棲みやすい川づくり：本川モデル

目標・運営方針から見る活動内容

目標：現況把握・評価（カルテ作成）の取り組みを実践しながら、将来のあるべき姿（絵）を描く。
運営方針：
「①生き物の移動阻害について」と「②微地形の多様性（瀬淵・ワンドなど）について」を、まずは優先して取り組む。

WG時の意見交換/振り返りシートから見る活動提案

○久澄橋下流の瀬や白浜工区など生き物のすみかについて、矢作川漁協との意見交換を行いながら、継続して検討する。
○矢作川環境整備計画と連携して、保全エリアと利用重視エリアを考えていく必要がある。
○総合土砂管理検討委員会の情報共有と意見交換の継続が必要である。
○白浜工区で維持管理手法につながる実験的試みをすべき。（樹木管理/生き物のすみか/川遊び/防災）
○矢作川のあるべき姿をイメージ化して残していく。

《来年度の活動内容（例示）》

① **生き物の移動阻害について**
- 支川合流点評価のカルテ（案）の作成・評価の実施
- 加茂川合流点の段差改善の検討

② **微地形の多様性（瀬淵・ワンドなど）について**
- 瀬淵・ワンド評価のカルテ（案）の作成・評価 ／ （仮）保全エリアマップの作成
- 白浜工区のモニタリング・川の微地形の把握（河床変動の技術的検討）
- 関係者（矢作川漁協等）との意見交換の継続
- 豊田市河川環境活性化プラン検討委員会との連携（情報共有・意見交換等）

③ **河床のアーマーコート化**
- 総合土砂管理の先進地域の視察（小渋ダム、美和ダム等）
- 総合土砂管理検討委員会との情報共有の継続 ／ 土砂のあり方等の検討

④ **外来種・在来種の対策**
- 外来種・在来種の最新動向の情報共有
- 駆除活動への参加 ／ 駆除方法の改善等の検討

⑤ **事業内容の情報共有**
- 河川整備計画の勉強会の継続
- 事業内容の情報共有の継続・提案実施

来年度の活動方針（案）

- WGメンバーで**加茂川合流点・家下川合流点における移動阻害の改善状況**のモニタリングに取り組む。
- 微地形の多様性（瀬淵・ワンドなど）について、WGメンバーで**現地調査や関係者との意見交換、豊田市河川環境活性化プラン検討委員会との連携**を進め、**（仮）保全エリアマップを作成**する。
- 低水路拡幅後の河道の応答状況を把握するため、定期的な目視による観測に加え、河床形状の測量を行うことにより、学識者を主体として**白浜工区をモニタリング**する。
- 総合土砂管理の知見を深めるためにWGメンバーで**先進地域を視察**し、**総合土砂管理検討委員会との情報共有を継続**する。

■テーマ① 生き物の棲みやすい川づくり：家下川（支川）モデル

運営方針から見る活動内容

目標：実施中の活動の取り組み効果を確認し、将来のあるべき姿（絵）を描くとともに、他の場所や他の支川への展開方法を検討。
運営方針：
「①生き物の棲みかの不足について」を優先課題として、WGメンバーで、矢作川水族館や家下川リバーキーパーズ等の活動団体の活動に参加しながら、検討に取り組む。

WG時の意見交換/振り返りシートから見る活動提案

○承水溝－長池の段差改善や生き物の棲みかを確保する承水溝の浚渫の提案を継続して検討する必要がある。
○複数の管理者が関係することから、WGと関係者間が連携して進める必要がある。
○排水機場改修について、管理者からの情報提供が必要である。
○検討にあたっては、承水溝・長池・宗貞川付近の水位の連動性、長池の底の状況を把握することが重要である。

《来年度の活動内容（例示）》

① **生き物の移動阻害について**
- 移動阻害箇所の情報収集の継続
- 排水機場の改修に伴う段差解消方法の検討
- 矢板切り欠き箇所のモニタリング

② **生き物の棲みかの不足について**
- リバーキーパーズの活動効果の情報共有 ／ 他の場所への展開の検討
- 承水溝の浚渫に対する提案

③ **水量不足について**
- 水源（家下川、農業用水、地下水など）の情報収集・現地調査
- ひょうたん池（長池）の水量確保の可能性検討

来年度の活動方針（案）

- 生き物の移動阻害について、管理者と連携して、**排水機場の改修に伴う段差解消方法の検討**を継続する。（優先課題①）
- 生き物の棲みかの不足について、**承水溝の浚渫方法に対する提案**を具体化する。（優先課題②）
- 水量不足について、水源の情報収集・現地調査を実施し、新たな情報が得られた段階で、ひょうたん池（長池）の水量確保の可能性の検討を進める。
- 矢作川の他支川での活動展開を検討する。

■テーマ② 地先の課題：地先モデル

目標・運営方針から見る活動内容

目標：関係機関調整の場の提供と（仮）専門家リストの作成・試行的運用、個別課題の情報共有、解決の方向性検討の進展
運営方針：
「河川空間利用に関する調整の場の提供」と「（仮）専門家リストの作成」を優先的に検討する。
各課題の情報共有と解決の方向性を検討する。
地先の活動団体等をリスト化し、情報共有の場を提供する。

ＷＧ時の意見交換/振り返りシートから見る活動提案

○水質汚濁の問題は、行政と地域（活動団体）の連携が有効であることを確認。
○活動場所をきれいに保つことが、マナー違反の抑止につながることを確認。
○活動推進上の課題には、主に「活動費」「人材」「設備・機材」「行政のバックアップ」の課題がある。
○活動団体と町会が連携することにより、「活動費」「人材」の課題解決が可能。
○（仮）専門家リストのたたき台を作成したところであるが、更なる情報提供を依頼し、リストの充実が必要。
○ＷＧに出てもらえるよう、活動団体への積極的な働きかけが必要。

《来年度の活動内容（例示）》

① **活動環境に関する課題について**
- 活動団体へのヒアリングの継続（地先の課題の抽出）
- 公開ヒアリング（仮称）の実施
  （流域圏懇談会の活動に参加していない活動団体に積極的にアプローチする機会として。）
- 活動団体ＭＡＰの作成（川に関わる活動団体の把握）
- 個別課題の情報共有 ／ 個別課題の解決の方向性の検討

② **活動推進上の課題について**
- （仮）専門家リストの充実・試行運用
- 河川空間利用の調整（関係機関、市民意見の反映）の場の提供

来年度の活動方針（案）

○ 協力いただける**活動団体へのヒアリング**（公開ヒアリング（仮称）の実施）を継続しながら、**個別課題の解決の方向性を検討**する。
（事業実施に関わる地域の活動団体を対象とすることも考えられる。）
○ ヒアリング・アンケート等を活用して、**活動団体ＭＡＰを作成**する。
○ ＷＧメンバーからの情報提供により、**（仮）専門家リストの充実・改良**を図り、まずはＷＧメンバーで**共有**する。

■川部会の活動運営に向けて

《来年度の活動運営の考え方》

① できるだけ多くの人に参加してもらうため、川部会メンバーが参加したい活動を中心とし、川部会メンバーの主体的な参画に基づき、活動を実施します。

（来年度第１回ＷＧまでに、皆さんの要望を確認し、活動の方向性を決定します。）

② 活動は概ね月１回程度を想定する。各モデルの開催頻度（全８回とした場合）は以下のとおり。
本川モデル：３回　家下川モデル：２回　地先モデル：２回　とりまとめ：１回

③ 活動日は、参加しやすさに配慮し、平日開催だけでなく、土日祝日開催も視野に調整します。

④ 川部会メンバーから提案があり、川部会ＷＧで検討すべき内容として認識された課題については、３モデルの対象区間にとらわれず、検討を行うこととする。